



て、コーチング法などを含めて多くのことを学ぶことができた。

同時に、私自身の指導する選手が個人種目で決勝に進出し、6位に入賞、そしてリレーで銅メダルを獲得するなど自身のコーチングにも実際に生かすことができた。

オリンピック大会終了後は国内に滞在し、コーチングの情報についてのまとめを行った。

その後2月にアメリカで高所トレーニングについて、再度調査・研究を行い、現地の指導者との論議でコーチングに関する資料を得ることによって、競技力向上のしくみについて理解を深めることができた。

また、渡米中に南カリフォルニア大学のアスレチック・デパートメントを訪問し、同ディレクターへのインタビューを行うことによって、同大学の財政支援およびNCAAのしくみなど大学スポーツとしての取り組みについてディスカッションを行うことができた。

アメリカの大学スポーツのしくみは日本よりも発達しており、今後の日本の大学スポーツの発展のために参考になる資料を得ることができた。

以上のことから、本研究期間の成果として、学部教育ならびにコーチング科学研究領域を充実させる活動ができた。今後は学生教育および大学スポーツのあり方や運営方法について、発展させていきたい。